

母への近況報告

小原 薫（福岡県宗像市／62歳 女性）

お母さん、私は毎朝目に見えない微生物くんにお疲れ様」と声をかけています。段ボール箱を使つての生ゴミ堆肥化をしているのです。手袋をしてかき混ぜるとほんのりあたたかく「生きている」と実感します。タンボール箱の基材の中に台所の生ゴミを入れておく翌日には微生物くんが食べ尽くれてすっかり消えてしまつておしまひです。

数ヶ月の投入後、一ヶ月程の熟成で立派な堆肥のでき上がり。微生物くんの生命は三十分から長いものでも二時間とか。一個の微生物が一、二日で億単位に増えるそうです。すくすくおこす。

私はこの活動を始めて、エコにとどまらず、食物（生物）への感謝、微生物くんの素晴らしさ、人間の驕りなどいろいろなことを学びました。今、全市をあげてこの活動を普及し、私もそのお手伝いをしています。じれからこの堆肥を使って朝顔の緑のカーテンづくり、夏は毎年朝顔との生活で元気をもらっています。

五月十九日では私は六十二歳、お母さんよりも十八歳も年上になってしまいました。（お母さんは、いつまでも若いー）私の記憶にあるお母さんは、いつも働いていましたね。ミシンや編み機で内職をしたり、朝早くからお弁当を作ったり、そうそう、運動会の日なり寿司と巻き寿司のおいしかったことー私は合所に立つお母さんの背中に毎日話しかけていたような気がします。「成績悪かった。」というとき「皆も悪かったんじゃない？次頑張れば。」と幾度となく励ましてくれたこと、覚えていきます。

お母さん、嬉しいお知らせがあります。一月二十五日、私「バアバちゃん」になったんですよ。美琴とていつ女の子です。生まれてすぐ腕に抱いた時のぬくもりを訴われることができません。美琴は「命」の意味です。すつききな名前だけれども、まじり笑っていますよ。最近はどうなることが解明されて、お腹の中での様子など娘からきいて、生命誕生の神秘にも感動しました。私は「バアバちゃん」として「孫育て」をすすめます。

ふり返ると、私はお母さんに一度でも「ありがとう」と言ったかしらと思ひます。高校を卒業して紆余曲折の後、三年遅れで大学へ進学した時も。合格の翌年お母さんは、大任を果たしたかのように逝ってしまつて……。……。

月並みだけど「産んでくれてありがとう。」「生命のバトンをしっかり受け渡しました。」「二十二年間たくさんのお愛をありがとうー！」「そしてなによりも生命という宝物をありがとうー！」

お母さんへ